

別紙

前年度の温室効果ガスの排出の量及び排出削減計画に基づき実施した措置の状況

氏名	(法人にあっては名称) 倉敷化工株式会社		住所	(法人にあっては主たる事業所の所在地) 〒 712-8555 岡山県倉敷市連島町矢柄四の町4630	
本票作成	部署名：技術部 工務課				
主たる業種	分類コード	19	業種名：ゴム製品製造業		
事業の概要	自動車用ゴム部品、産業用防振・防音・緩衝機器の製造販売 従業員数861名				
県内の主な工場等	番号	工場等の名称		所在地	
	①	本社工場		岡山県倉敷市連島町矢柄四の町4630	
特定事業者の該当要件	<input checked="" type="checkbox"/> ①燃料等原油換算1,500kl以上 <input type="checkbox"/> ②バス・トラック100台、タクシー250台以上 <input type="checkbox"/> ③CO ₂ 換算3,000t以上 (●工場等の数 1 所 ●車両台数 (②該当の場合) 台)				

温室効果ガス排出量	基準年度 (令和 5 年度)	(令和 6) 年度排出量	目標年度 (令和 9 年度)
	9,814 t CO ₂	9,304 t CO ₂	9,814 t CO ₂
主な工場等の排出量	番号	工場等の名称	(令和 6) 年度排出量
	①	本社工場	9,304 t CO ₂
			t CO ₂
			t CO ₂
			t CO ₂
			t CO ₂
			t CO ₂

削減目標の達成状況	計画期間： 令和 6 年度 ～ 令和 9 年度 (4 箇年度)			
	<input type="checkbox"/> 総排出量基準	(6) 年度削減実績	目標削減率	目標達成
	<input checked="" type="checkbox"/> 原単位基準	5.6 %	3.7 %	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達

(原単位基準の削減目標を選択している場合に記入)	温室効果ガスの排出量と密接な関係をもつ値の内容 ゴム製造業を生業としているため、製造工程において原材料として使用する「練りゴム使用量」を原単位とした。	原単位当たり排出量		
		基準年度	(6) 年度	目標年度
		3.220	3.040	3.100
		t CO ₂ /(t)	t CO ₂ /(t)	t CO ₂ /(t)

(該当事業者のみ記入)				
ベンチマーク指標の状況	対象事業の名称	ベンチマーク指標	関連数値(令和 6 年度)	達成率等

【削減状況の自己評価】

倉敷化工では、カーボンニュートラルに向けて、2030年度までの全社目標を設定しています。2024年度目標を立て、エネルギー管理グループ別に省エネロードマップを提出し、見込み量を上回るように推進しました。毎月CO₂と削減実績を集計し達成度を環境管理委員会で報告しました。全社員で取り組みをし、改善活動報告を毎月グループ毎に報告し、活動を水平展開しています。今年度は、生産性向上活動、省エネ設備の更新など計画 (259t) 以上にCO₂削減 (268t) が出来たことにより目標を達成することが出来ました。

【推進体制】

- ・省エネ法に基づくエネルギー統括者を中心としたエネルギー管理体制のもと、手順書通りに進めてゆく。
- ・ISO14001に基づき、社長をトップとした環境管理体制の下、全社目的目標に省エネルギーを前面に押し出し環境改善をPDCAを回しながら推進して行く。
- ・カーボンニュートラルへ向けて、全部門に省エネRM（アイテム）を抽出、実施年の削減量を集計し、全社目標を推算。各エリア目標値に製造領域、開発領域、事務所等に按分し、各エネルギー管理責任者による省エネ活動を実施。毎月の環境管理委員会で全社、各エリアの達成状況と省エネアイテムの削減効果を確認し、未達時は課題を分析し、達成に向けて推進をしていく。

【目標削減率達成のために実施した措置及び今後の取組】

工場等の名称	実施した措置及び今後の取組の内容
	<p>(令和6年度実施分)</p> <p>■設備関係</p> <p>①省エネ機器の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新設備へ省エネ機器を採用 <p>②蒸気配管、バルブへの保温</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蒸気利用の各設備へ実施 <p>③動力トランスの更新</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高効率型の動力トランスに一部更新 <p>④コンデンサ、リアクトルの更新</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンデンサ、リアクトルを最新型へ更新 <p>■製造部門</p> <p>①ムリ・ムダを無くす、省エネ活動（不使用時のスイッチオフ）</p> <p>②時間短縮、生産性向上、稼働率アップ</p> <p>(今後実施予定分)</p> <p>■製造時における生産性向上、不良低減活動、歩留まり向上等の省エネ活動</p> <p>■設備関係</p> <p>①動力トランスの更新</p> <p>②コージェネレーションシステムの更新（A重油から都市ガスへ燃料転換）</p> <p>■社用車・フォークリフト関係</p> <p>社用車はEV化、フォークリフトは電動化</p> <p>■太陽光発電システム</p> <p>パネルの増設、既存設備の自家消費化（売電から自家消費へ）</p>

【森林保全等吸収源対策への取組】

県内での取組	無	
その他	無	

【再生可能エネルギーの導入】

県内での取組	無	
その他	無	

【その他特記事項】

- ・製造過程における生産性向上活動におけるサイクルタイムの削減、歩留まり向上活動による省エネアイテムを実施し、アイテム効果を計算し削減活動目標に貢献している。
- ・冷房使用電力削減のため、全社でクールビズに取り組み実施。
- ・社内の省エネ管理手順書を作成し、気候変動適応法と同調した空調温度設定（夏、冬）を全社展開している。
- ・毎年、ライトダウンキャンペーンに参加している。
- ・昼休憩時の照明OFF（12：15～12：30）
- ・CO2削減取組として、全社各部門に目標と削減アイテム抽出を施策として実施。倉敷化工が単独ではなくマツダグループ全体で国に準じた独自の目標を掲げて削減活動を行っている。